

令和 5 年度 県立海洋高等学校自己評価表

目指す学校像	教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識や学力を確実に習得し、水産・海洋教育をとおして、生きて働く知識・技能を身につける。 ○人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を育むとともに未知の状況にも対応できる能力を育成する。 ○社会の一員として不可欠な、規範意識、コミュニケーション能力、社会性、倫理観を育み、地域に信頼され、愛される地域産業の担い手を育成する。 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○水産業並びに海洋関連産業に従事するスペシャリストを養成するために、体験型の学びを数多く取り入れるなど、教育課程の編成を工夫し、生徒が主体的・意欲的に学習し、社会人として役に立つ人間力を育成する学校をめざす。 ○ 大学進学や就職など、生徒の多様な進路希望に応じ、個人面接や進路ガイダンスなどを行い、きめ細かな進路指導の充実を図る。 ○生徒一人ひとりが学びを通して、充実感・達成感を体験すると共に、集団生活を通して、生き生きとした人間関係を築き、体育祭・海洋祭(隔年実施)やクラスマッチなどを生徒自らが計画・実行できるよう学校行事の内容の充実を図る。 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○海・船・魚など水産・海洋関連に興味のある人。 ○自ら積極的に学ぼうとする人。 ○自分を大切にすると共に、他人に対して思いやりの心を持つ人。 ○日本と世界で活躍を目指す人。 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>海洋高校生として身につけるべき知識と技能の確実な定着を期して、授業時間の確保と教え方に工夫を図った。一方で言語力の育成が十分でない生徒も存在しており、言語活動を充実させる取り組みが必要である。</p> <p>教科によっては横断的な教育が実施されているが、学校教育目標をふまえた資質・能力の向上を目指し、カリキュラムマネジメントを実施する必要がある。</p> <p>地域に信頼され、愛される地域産業の担い手の育成を目指し、身だしなみの指導や遅刻者等に対する出席状況改善の取組により、基本的な生活習慣は定着しつつある。更なる好転のために継続的な指導をしていくことが必要である。進</p>	1 教育の質の保証	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒一人一人の成長を願い、日常における生徒理解と生徒観察に努める。 (2) 生徒の学校生活への充実感や達成感を高める。 (3) 生徒の自立を促す「自発的な学び」の指導の充実を図る。(自己指導能力の育成) (4) 生徒個々の良さを伸ばし、全員を進級及び卒業へ導く。(状況に応じ個別に支援) (5) いじめや体罰のない「安心・安全な学校」を目指す。(生徒の心のケアの充実) (6) 全職員が品格を保って勤務する。(コンプライアンス・学校への信頼高揚) (7) I C Tを活用した教育活動の充実を図る。 (8) 地域の諸学校や関係機関・団体等との連携を一層推進する。 	A
	2 地域に信頼され、愛される地域産業の担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> (1) 挨拶・返事・身だしなみ・5分前行動の指導及び支援の充実を図る。 (2) 家庭と密に連携し、遅刻・欠席を減らし、皆勤者・精勤者を一層増やす。 (3) 魅力ある進学・就職先の新規開拓に努める。 (4) 企業実習・みんプロ・地域のイベント・ボランティア活動への参加を推進する。 (5) 学校ホームページ・インスタグラム等での情報発信や県教委・知事部局・マスコミ等への情報提供により広報活動を充実させる。 	B

別紙様式 2 (高)

<p>路については地域関連企業と連携した教育を推進し、就職する生徒の約5割が水産・海洋関連産業へ就く状況である。進路実現に向けたなお一層の動機付けを行う必要がある。</p> <p>大型実習船鹿島丸を活用して、最新で幅広く実践的な漁業技術や航海及び機関に関する知識・技能の修得を目指し、充実した実習船教育を推進することが求められる。</p>	3 生徒一人一人の学習指導の充実	<p>(1) 授業時間の確保と授業改善を推進する。(目標の明確化、言語活動の充実、観点別評価を踏まえた評定)</p> <p>(2) 職員間の情報共有を推進する。(学年・学科・教科・分掌・部活動等：各人の経験や知見に基づく知恵を出し合う→チーム海洋)</p> <p>(3) 生徒の学習意欲の向上を図る。(検定試験への挑戦、体験的な学習の推進)</p> <p>(4) 校内環境の整備を推進する。</p>	A	
	4 開催イベント等の成功	<p>(1) 生徒が主体的に学校行事に参加し、達成感を得よう支援する。</p> <p>(2) 行事等から自己実現とキャリア形成のため、キャリアパスポート等の活用を図る。</p> <p>(3) 保護者や地域に広く周知するとともに、各種の情報発信や情報提供により広報活動を充実させる。</p>	A	
	5 働き方改革	<p>(1) 働き方改革を推進する。</p> <p>(2) 一部の教員に仕事が集中することを防ぎ、チームとしての取り組みを強化する。</p>	A	
	6 授業改善	<p>(1) 授業満足度 (K P I = 満足度 5%増) の向上を図る。(授業の在り方を研究)</p> <p>(2) 生徒自らが主体的に学ぶ機会を増やす。</p>	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	海洋技術者に必要な基本的技能や知識の定着を図り、教育の質を保証する。	カリキュラムマネジメントを実施しながら、水産・海洋に関する内容と各教科の指導を横断的に実施し、生徒が興味・関心を抱き、充実度や達成感を高められるようにする。	A	A ・教科横断的な学びを行うことで、より深い理解に繋げることができた。 ・語彙力がないことにより、学習だけではなく、対人関係にも大きな影響があるため、今後も語彙力育成には力を入れたい。
		各教科において記録、要約、説明、論述等を取り入れた授業を展開し、言語活動を充実させるとともに、自立を促す「学び」の指導の充実を図る。	A	
		教科書や副教材を使用し、漢字・語彙力を育成する。	B	
授業改善	生徒自らが主体的に取り組む機会を増やし、学びに向かう意欲を高める。	A		
国語	生徒の実態に応じた授業を展開し、希望進路の実現に必要な語彙力や作文能力、基礎的学力などを養成する。	教科書や副教材を使用し、漢字・語彙力を育成する。	A	A ・漢字や語句、一般常識などの基礎学力の向上。 ・基本的な文章作成における基礎や技術の向上。
		様々な文章に触れ、読解力を深める。	B	
		進路希望の実現を目指し、ICT機器や動画などを利用して、授業内容を工夫する。	A	
授業改善	生徒の興味・関心が高まるようにICTやデジタル機器を活用した授業を展開する。	A		
地理歴史	基礎的・基本的な内容を理解させ、知識を修得させる。また、興味・関心が高まり、学ぶ楽しさを感じられるようにする。	教科書内容を精選し、生徒の実情にあった内容を深く展開し、プリントや教科書準拠教材の利用によって、知識の定着を図る。	A	A ・授業時数が少なく、一部生徒がノートパソコンを持参せず、計画的にICTの授業が展開できていない。積極的に利用していきたい。
		計画的なICTの利用によって、様々な視覚に触れさせ、多面的な学習を展開する。	A	
	授業改善	ICTを利用し、自ら調べ、自ら考える力を養う機会をつくる。	B	

別紙様式 2 (高)

公民	基礎的・基本的な内容を理解させ、知識を修得させる。また、興味・関心が高まり、学ぶ楽しさを感じられるようにする。	教科書内容を精選し、生徒の実情にあった内容を深く展開し、プリントや教科書準拠教材の利用によって、知識の定着を図る。	A	A	・公民の授業では、電子黒板を用いた授業を計画的に実施できた。さらに、自ら調べ、考える力を養う授業を展開したい。
		計画的なICTの利用によって、様々な視覚に触れさせ、多面的な学習を展開する。	A		
	授業改善	ICTを利用し、自ら調べ、自ら考える力を養う機会をつくる。	A		
数学	主体的・対話的に取り組める活動を取り入れ、生徒に達成感を与える授業を展開する。	生徒が興味・関心を持つようにグループ活動や発問を工夫する。	B	A	・基礎計算を今まで以上に充実させ実施することができた。また、数学と水産の繋がりがあがる授業を実施することもできた。グループ活動やICTの活用については今後も研究を続け、より良いものにしていきたい。
		生徒の理解度に合わせて、効果的にICTを活用し、実践事例を蓄積していく。	B		
	進路実現のための生徒の基礎学力向上を図る。	進学・就職に関わる試験等を把握し、授業に取り入れていく。	A		
		水産に関係する内容を取り入れ、数学と水産に繋がりを持たせる。	A		
授業改善	基礎計算練習を今まで以上に数多く丁寧に実施し、生徒の理解が深まるようにする。	A			
理科	生徒の実態に応じた授業内容や教材の工夫を図るとともに、水産・海洋分野に関連づけた授業を実施する。	水産・海洋に関係する内容を取り入れていき、ICTを活用しながら、興味・関心を高められる授業を工夫する。	A	A	・授業での生徒実験の更なる充実（本年度は各クラス2回（平均）） ・ルーブリック等を活用した、授業評価の改善
		ワークシート等で生徒の理解度を分析し、授業や評価に反映させていく。	A		
		科学的なものの見方、考え方を育てていくとともに、生徒が考えをまとめるなど表現する言語活動を重視した授業を行う。	B		
	授業改善	授業に生かす評価を意識しながら、授業改善に努める。	B		
保健体育	基礎体力の向上を図ることができる資質や能力を育てる。	生涯スポーツを意識した種目選択を行い、生徒のニーズに対して応える。	B	B	・体力テストの結果が県平均と比較して大幅に下回っている。普段の授業を楽しみながら、自然と体力の向上につながるような授業展開をする。 ・タブレットの動画撮影機能を使用し、自己や他者の動きを撮影し技術向上につなげる。
		チーム編成をする際の能力の均等化を考慮し、楽しく活動ができるようにする。	A		
		スポーツランキングを積極的に取り入れ、親しみながら基礎体力の向上を目指す。	B		
	生涯を通じてスポーツを継続していくための基礎知識を身につけさせる。	能力に応じ、簡易ルールを工夫しながら、誰でもが楽しめるようにする。	B		
		個々の役割分担を明確にすることにより責任ある行動を促す。	C		
	生涯を通じて自らの健康を適切に管理する能力を育てる。	設備や用具の安全性を考慮し、適切な使用方法を指導する。	B		
		内容を精選し、全ての人の健康を守るために必要な知識を重点的に学習させる。	B		
授業改善	身近な問題を取り上げ、体験的学習を充実することにより実践生活に活かせるようにする。	B			
芸術	書道を通じ、日本の伝統文化に興味・関心を持たせ、生活の中に役立たせる。	学科の特性に応じた授業展開を行う。	B	A	・個々の能力に適応する指導を行う。 ・能力のある生徒に力を一層発揮させていく。
		硬筆は、レッスン帳やプリントを用い、基礎から実用書まで指導し、生活に役立つようにさせる。	A		
	授業改善	毛筆は、個々の能力に合わせ、基礎から創作まで指導し、書の楽しさを感じさせる。	A		
		映像等を活用し、身近な書芸術の作品鑑賞を行うことで、興味・関心を向上させる。	B		

別紙様式 2 (高)

外国語	水産系高校生として知っておきたい知識の習得を目指す。	近海の魚の名前や船に関する知識の習得を目的とした授業を取り入れ、定期考査へも反映させる。	A	A	・ICTを効果的に取り入れた授業を実施し、生徒が授業に満足度を向上できるような授業を目指す。
	生徒の実態に応じた授業を展開し、基礎学力の定着を図る。	生徒の習熟度に合わせ、基礎的な内容の学び直しを目的とした授業を行い、併せて、意欲のある生徒には英語検定を促す。	A		
	コミュニケーション能力の育成を図る。	ALT との TT により実践的なコミュニケーション能力を育てる。	A		
		クラスルームイングリッシュを使い、日常から英語に慣れさせる。	A		
授業改善	生徒の授業満足度を5%以上増加させる。	B			
家庭	家庭生活の充実・向上を図り、日々の生活に結びつける。	家庭や地域の生活に関心を持たせ、生活の充実・向上を図る。	A	A	・家庭科で学んだことを自分の生活に取り込み、実生活を向上させるとともに社会における関連を考えさせたい。
		実習を通して、基礎的・基本的な技術を身につけさせると同時に、衣・食・住について生きる上で必要な知識を身につけさせる。	A		
		学習を通じて領域に拘わらず、水産に関する内容も扱うことで日々の生活に結びつける。	B		
	授業改善	ホームプロジェクトを実施することで、自身の生活を向上させる。その体験をとおり、家庭科を学ぶ意義を理解し、学ぶ意欲と得られるようにする。	A		
水産	専門教科に対する興味・関心・学習意欲を高める。	実習や水産・海洋に関する技術と関連させる等の工夫により、水産・海洋技術者に求められる知識・技能の修得に向けて、学習意欲を高める。	A	A	・全体的に目標を意識した授業を行うことができた。 ・ICTの活用は積極的に使用できたが、今後もより多くの授業で生徒の深い学びのために活用していきたい。
		水産・海洋関連企業について紹介や、企業実習の実施により、就業意欲を高めるとともに、学習意欲を向上させる。	A		
		効果的にICTを活用し、学習活動の充実を図る。	B		
	個々の適正に応じた専門指導を総合的に行う。	資格取得の奨励や、地域と連携した教育活動の展開等を通して、生徒の適正と将来を見据えた総合的な指導を実施する。	A		
		ワークシートや小テストなどを定期的に作成し知識の定着を図る。	A		
	授業改善	定期的な教科担当者会議を実施し、実習や定期考査・ワークシート等の進捗や成果について横断的に情報交換する。それにより多方面から生徒へのアプローチができ、学習意欲を向上させる。	B		
教務	生徒の学習意欲の向上を目指した授業の展開。	目標を明確化し、生徒が達成感を得られる授業を実施する。そのために必要な授業時間を確保すると共に、各種資格検定への挑戦を促す。	B	A	・コロナが5類に移行したことにより、行事がコロナ禍前に戻ったため、授業時間確保が難しい状況である。行事の精選を行い、学びの時間の確保に努めたい。 ・ICTを使用する授業は増えてきた。今後は、学力向上の
	教育の質を保証できる授業の確立。	生徒の「良さ」を認め評価する授業を実践し、授業満足度を向上させる。	A		
		本校生徒に求められる知識・技術の修得に向けて各教科・科目が横断的な授業を展開する。	A		
		カリキュラムマネジメントの実施にあたり、各教科等との調整を図る。	B		
		ICTを活用し、学力向上を目指す。	A		
		生徒の資質・能力を伸ばす授業と評価を行う。	B		

別紙様式 2 (高)

	図書室蔵書を充実させ、生徒及び教員の教養を育成する。	各学年や各学科において知識や教養を深めるために有効な図書を選定し、購入する。	A		ために、どう使うかをより考えていく必要がある。 ・図書委員会を実施し、生徒からの希望図書を募った。今後も、有効な図書購入に努める。
	図書委員会を活性化させるとともに、図書室の利用を促進させる	開館利用時間を工夫し、生徒が利用しやすい環境を整える。	A		
		図書館報を発行し、生徒の興味・関心を高めて図書館の利用を促す。	B		
		委員会活動を通して、本の紹介や希望図書の募集を行う。	A		
保健衛生	健康に対する意識の向上と保健指導の充実を目指す。	健康診断と結果を踏まえた効果的な事後指導の実施。	B	A	・熱中症対策のため、使用頻度の高い特別教室・実習室などへのエアコンの設置。
		様々な学校行事における保健管理・指導の徹底。	A		
		生徒の実態に合わせた保健だよりの発行。	A		
		学校環境衛生検査の実施。	A		
		校内環境の美化のため、清掃用具等の整備・点検の実施。	A		
		地域の関係機関・団体との効果的な連携。	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立 (学校を休まない、時間を守る生徒の育成)	5分前行動、学期毎の皆勤者を増やす等、欠席・遅刻等を減らす指導の工夫	B	A	・学校を休まない、時間を守る生徒の育成強化のため、出席状況の改善に向けた取組を今後さらに推進していきたい。 ・地域に愛され信頼される海洋高校生の育成を目標に「挨拶、返事、身だしなみ」の指導を継続し、生徒の主体性の育成へと繋げていきたい。 ・特別な配慮が必要な生徒に対する指導については、職員の共通理解、支援体制の強化、関係機関との連携等を推進し、継続的に取り組んでいきたい。
		生徒、保護者、教職員間の報告・連絡・相談の徹底	A		
		生徒指導体制の改善・充実、情報共有の促進	B		
		基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚・公共マナーの向上	A		
		スクールカウンセラー、特別支援コーディネーターの活用	A		
	規範意識の定着 (地域に信頼され、愛される海洋高校生の育成)	登校時の校門立哨等によるあいさつ・返事・身だしなみ指導の徹底	B		
		授業・集会・式典等における礼法指導の徹底、服装・頭髪等の継続的指導	B		
		校歌斉唱、制服の正しい着用等による愛校心の醸成、帰属意識の向上	B		
		地域や家庭と連携した下校路巡回・列車添乗指導による交通・乗車マナーの向上	B		
		関係機関と連携した交通安全講話・SNSマナー講話等の実施	A		
	安心・安全な学校づくり (いじめ等問題行動、体罰の防止)	家庭訪問・面談・教育相談・アンケート調査等によるいじめ等問題行動の未然防止・早期発見・早期解消	A		
		授業、HR活動等におけるSNS安全利用、情報モラル教育の徹底	A		
		教育相談・特別支援教育・いじめ・アンガーマネジメント等職員研修の実施	B		
		日常における生徒理解・生徒観察の徹底と職員間の生徒情報共有の促進	A		
		全職員が品格を持って勤務する。コンプライアンスの遵守	A		

別紙様式 2 (高)

進路指導	地域産業の担い手を育成する。	学科に応じた効果的な企業実習を実施する。	A	A	・本年度の好調な就職内定状況を維持しつつ勤労観・職業観の意識をさらに高めるため進路ガイダンスや職業講話・企業説明会の充実を図る。生徒や保護者へ十分な進路情報を提供し各学科の特性を生かした進路先を開拓する。各学年、学科と連携し進学・就職に必要な基礎学力や面接指導の強化を図る。特別な支援を必要とする生徒については、保護者・教員・関係機関等の連携を図り進路実現を目指す。
		本校の特色に則した企業求人を開拓する。	A		
	早い時期からの進路に関する関心・意欲を向上させる。	進路ガイダンスや企業実習、進路講話を計画的、効果的に実施する。	A		
		就業・進学に向けた学力等を向上させる。	各学科と協力し、就職に向けた試験対策及び面接指導を実施する。		
	きめ細かな進路指導を実施する。		各学科と協力し、進学の受験方法に応じた指導を実施する。		
		就職先や進学先の受験情報を収集し、効果的な受験対策の提案をする。	A		
		特別な支援を必要とする生徒への進路対策の充実を図る。	A		
特別活動	生徒会活動の自主的な運営	生徒による学校行事の主な企画、運営	A	A	・部活動の参加率が低く、特に団体競技では、厳しい状況であるので、参加率向上が課題である。 ・イベントなどでは天候に左右されないものを検討していく必要がある。
		生徒会を中心として、地域イベントや企画に積極的に参加、協力	A		
	部活動の振興	部活動の参加率の向上及び、持続可能な部活動の運営。	B		
		部活動の指導者の育成及び講習会への参加	A		
	キャリアパスポートの活用・プレゼンテーションの実施	ホームルーム活動でこれまでの「キャリアパスポート」を整理し、自分の興味関心等の個性を理解し、自分の将来の生き方や生活について見通しを持つ。	B		
企画	地域連携の促進	企業実習の実施により、地域に認められる学校を目指す。	A	A	・90周年記念式典を見据えて学校全体で式典に臨めるように、PTAの皆さんと共に式典をプロデュースする。
		地域イベントに積極的に参加し、地域社会との交流を深める。	A		
	学校PRの促進	みんプロの実施により、生徒のスキルアップを図るとともにひらかれた学校づくりを目指す。	A		
		ホームページの充実ときめ細かな更新を行う。	B		
	PTA活動の活性化	委員会活動の充実と活性化（参加率の増加）	A		
		広報紙等による保護者、地域住民への広報活動	A		

別紙様式2 (高)

第1学年	希望進路の実現に向け、個に応じた学習指導内容の充実を図る。	学習内容の精選を進め、生徒一人ひとりの実態に即した授業を展開、基礎学力の修得を目指す。	A	A	・2学期以降、生徒指導に関わる問題行動が頻発している。生徒一人一人の行動を観察し、カウンセラー等と連携して学校内外の問題に寄り添い、指導していく必要がある。
	望ましい集団生活を通し、規範意識の高揚を図る。	安心・安全な学校(クラス)づくりを目指し、基本的な生活習慣の確立、生徒指導部との連携およびLHRや学年集会の効果的な実施を行う。	B		
	家庭との連携を密にする。	生徒の行動をよく観察し、早期対応する。また問題行動が見られた場合、すぐに家庭に連絡し、学校と家庭で連携して指導していく体制を確立する。	A		
第2学年	社会人に必要な資質を身につけさせ、基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻を減らし、あいさつ、言葉遣い、頭髪・服装について共通認識のもと指導を行う。	B	B	・基本的な生活習慣や道徳的判断力等が身につくように指導を継続する。 ・進路実現に向け、進路に対する意識の高揚や基礎学力の向上を図る指導の充実が必要である。
		LHRにおいて道徳教育を積極的に取り入れ、道徳的判断力や道徳的実践力を身につけさせる。	A		
	基礎学力の定着を図り、将来の進路を見据えた授業・実習等を実施する。	授業を通して国語力や計算力等の基礎学力を身につけさせる。	A		
		専門教科等を通して将来の進路に必要な知識・技術を身につけさせる。	A		
		企業実習を通して将来の目標を明確にし、進路選択への意欲を向上させる。	B		
	学校行事への積極的な参加を促す。	有意義な修学旅行の実施を目指し、見学地の文化や歴史等についてよく理解させる。	A		
クラスマッチや体育祭等の学校行事へ積極的に参加させ、参加することの大切さや充実感を体感させる。		A			
第3学年	生徒の進路目標を明確にさせるとともに、目標の実現に向けた指導の充実を図る。	2者面談・3者面談を実施する。進路指導部や他の部署と協力し、基礎学力や面接力の向上を目指す。また、学年各クラスで協力し、統一的な進路指導を行う。	B	B	・学校行事活動に対しては積極的に参加できた。 ・欠席や遅刻が多く、基本的な生活習慣が身についているとは言えない。今後も継続して指導していく必要がある。
	社会人として必要なマナーを身につけさせる。	基本的な生活習慣を向上させ、社会人となる意識を持たせる指導をする。	B		
	最上級生としての自覚を持たせ、率先して学校行事や部活動に参加させる。	特別活動やHR活動を通して最上級生としての自覚を持たせ、学校行事や部活動に積極的に参加させる。	A		

※ 評価規準：A:十分に満足できる B:概ね満足できる C:努力を要す